（別紙イ）

事業成果報告書

１．教育委員会名　：　占冠村教育委員会

２．研究主題　：　〔調査研究Ⅱ〕小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化

３．研究タイトル　：　**占冠村大好き教育推進プロジェクト**

４．研究課題　：

(1)　小規模校のメリットを最大化させる方策
　ア．少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
　イ．その他，創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校の
　　　メリットを最大化させる先進的な方策

(2)　小規模校のデメリットを最小化させる方策
　ア．学校間ネットワークの構築
　イ．社会教育と密接に連携した学校教育活動
　エ．その他，創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校の
　　　デメリットを最小化させる先進的な方策

５．事業の実績

（１）調査研究のねらい

「少子高齢化が全国に先駆けて進む占冠村において，子どもたちの育成は村の存続に係るとても重要な課題である。村内の学校を存続させていくためには，少子化の中，子どもたちに特色ある教育活動を展開していくことが重要となる。そこで，小規模校のデメリットの解消のため，学校と村内外を繋ぐネットワークを構築し，地域の大学やリゾート企業と連携したふるさと学習や外国語学習を行うことで，小規模校で不足しがちな多様な価値観に触れる機会を確保する。

また，小規模校であることのメリットを生かし，教材教具を一人一人に行き渡らせた教育活動やショー＆テル等，少人数でなければできない教育活動を充実させる。これらの取組を通して，小規模校の課題を解決すると同時に，基礎学力，英語力などを中心にして子どもたちの「生きる力」を育み，「占冠大好き」教育を推進する。

※要点をまとめ，簡潔に記載すること。

（２）調査研究の実施状況（平成29年度）

４月	■占冠大好きプロジェクトに係る計画案確認 ・協力大学による授業の打合せ ■プロジェクト推進に係る校内体制確立 ・校内分掌「文科省事業推進・学校運営協議会」を設置（管理職以外の６名の教職員） ■トマム学校が義務教育学校としてスタート ■第１回地域学校協働本部会議開催（学校支援地域本部から地域学校協働本部体制へ移行） ・放課後子ども教室実施案検討 ・中学生対象の公設塾案検討 ■地域学校協働本部会議実施 ○ショウ＆テル記録方法の確認…① ○対話型ショウ＆テルについての検討会議…① ○占冠保育所での英語活動とショウ＆テル開始…① ○全学年英語指導体制の確認と校内授業研究計画確認…② ○小中一貫英語教育課程実施…② ○全学年外国語活動（英語）実施（低学年２０時間，中学年３５時間，高学年４１時間） ○占冠中央小学校，占冠中学校の小中一貫型への移行について調査研究継続…③ ○一人一台のタブレット配置に伴う，パソコンルームの撤去と校内無線LAN環境の設置準備…④ ○タブレットｅライブラリー活用に向け，新年度の設定と活用に向けた教職員研修会実施…④ （研修会は，トマム学校で開催し，テレビ会議システムを活用して占冠中央小と占冠中へ配信） ○卓球台常設と英語コーナー設置…⑤

５月	■占冠大好き教育推進プロジェクトに係る教育活動の継続 ■平成２９年度文科省「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」準備 ■全国学力学習状況調査の分析から指導方法の改善実施（家庭での学習習慣向上の取組） 　文科省事業委託３年間の占冠中央小学校の結果 　〇平成２７年度　５教科平均正答率　全国平均より１．１点高い 　〇平成２８年度　４教科平均正答率　全国平均より１７．０点高い 　〇平成２９年度　４教科平均正答率　全国平均より１３．７点高い 　※この事業を受け，年々平均正答率が伸びてきている ■地域学校協働本部会議実施 〇ショウ＆テルと英語スキル実施と記録開始。継続的実施と記録，検証…① 〇ショウ＆テルの話し手や聞き手の工夫改善の検討(縦割りグループの編成による実施)…① 〇英語スキル（低学年　単語・中学年　歌・高学年　英語劇）開始…① 〇英語学習の実施と記録と改善，英語校内授業研究（１年生，知的学級）実施…② 〇義務教育学校開始の状況についての確認と小中一貫校に向けた協議開始…③ 〇個人カルテ活用の検討と記録開始…③ 〇一人一台タブレットの配置…④ 〇特別教室整備，コミュニティ・ホールでの授業実施…⑤ 〇テレビ会議システムを活用した修学旅行事前学習の実施…⑥ 〇協力大学（北海道大学）との遠隔授業打合せ…⑦ 〇伝統文化の授業実施へ向けた打合せ…⑧ 〇協力大学との国際感覚を高めるプログラム実施へ向けた打合せ開始…⑨
６月	■平成２９年度文科省「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」開始 ■地域学校協働本部会議実施 ■小中一貫校視察　占冠教育委員会２名，占冠中央小校長，占冠中学校長 　・小清水町教育委員会，小清水小学校，小清水中学校 〇ショウ＆テル実施…① 〇対話型ショウ＆テル計画（７月，１０月，１１月，１２月）確認…① 〇英語スキル（低学年　単語・中学年　歌・高学年　英語劇）継続…② 〇小中一貫型小学校・中学校導入へ向けた視察（北海道オホーツク管内小清水町）…③ 〇タブレット設定完了によりｅライブラリー活用開始…④ 〇テレビ会議システムを活用した宿泊研修事前学習の実施…④ 〇三者（北海道大学，星野リゾートトマム，占冠村）連携協定「川の学校」打合せ…⑧ 〇「石の学校」（日高山脈博物館学芸員）実施…⑧ 　・地層の学習や化石の発掘
７月	■第１回占冠大好き教育推進会議実施 ■東川第一小外国語活動公開究会参加 ■全学年体力テスト実施 ■地域学校協働本部会議実施 ■ＣＳ視察受け入れ（訓子府町・厚沢部町） 〇ショウ＆テルと英語スキルの継続的実施と記録，検証…① 〇対話型ショウ＆テル実施…① 〇英語スキル（低学年　単語・中学年　歌・高学年　英語劇）開始…① 〇個人カルテ記録…③ 〇タブレットの活用とメンテナンス…④ 〇プログラム教育教材整備…④ 〇テレビ会議システムによる社会科副読本編集会議実施…⑥ 　・社会科副読本の電子化 〇寿都小学校とのネットワーク授業の接続試験と打合せ…⑦ 〇三者（北海道大学，星野リゾートトマム，占冠村）連携協定「川の学校」実施…⑧ 〇「川の遠足」川の体験学習（水の流れ，魚つり，たき火，ラフティング）…⑧ 〇「メープルシロップＰＲ授業」の打合せ…⑧ 〇国際感覚を身に付けるプログラム打合せ（北海道大学）…⑨ 〇学童クラブと放課後子ども教室の一体化へ向けた校内活用の検討…⑪ 〇中学生や義務教育学校後期課程の生徒を対象にしたステップアップサポートゼミ実施…⑪ 〇長期休業中の学習サポート（地域ボランティア，地域おこし協力隊）実施…⑪
８月	■地域学校協働本部会議実施 〇ショウ＆テルと英語スキルの継続的実施と記録，検証…① 〇英語スキル（低学年　単語・中学年　歌・高学年　英語劇）開始…① 〇英語学習の実施と記録と改善…② 〇個人カルテ記録…③ 〇タブレットの活用…④ 〇タブレットを活用したスカイメニュー活用研修会（中央小学校から村内２校へ配信）…④ 〇特別支援連絡協議会（中央小学校で開催～トマム学校へ配信）…④ 〇「占冠神楽」授業打合せ…⑧ 〇アイヌの人々の食や文化の授業（日高青少年の家宿泊体験学習）…⑧ 〇中学生や義務教育学校後期課程の生徒を対象にしたステップアップサポートゼミ実施…⑪

９月	■東京都三鷹第七小学校・杉並区教育委員会視察（校長） ■ショウ＆テル打合せ（東京学芸大学教職大学院　准教授　岩瀬直樹氏）校長 ■台北駐日経済文化代表所訪問 　・台湾の少子化人口減少の対策で占冠中央小学校の実践例を紹介　校長 ■地域学校協働本部会議実施 ◯ショウ＆テルと英語スキルの継続的実施と記録，検証…① ◯英語スキル（低学年　単語・中学年　歌・高学年　英語劇）開始…① ◯英語学習の実施と記録と改善，校内授業研究…② ◯学芸会種目での英語の歌の取組…② ◯個人カルテ記録…③ ◯タブレットの活用…④ ◯上川管内へき地複式教育研究大会におけるＩＣＴ活用の打合せ…④ ◯学童クラブと放課後子ども教室の一体化へ向けた校内活用の検討開始…⑪ ◯土曜学習実施計画検討開始…⑪ ◯中学生や義務教育学校後期課程の生徒を対象にしたステップアップサポートゼミ実施…⑪
10月	■寿都小学校英語研究大会参加 ■地域学校協働本部会議実施 ■上川管内へき地複式教育研究大会会場校 ■上川管内教育研究会南部地区外国語班授業会場 ■漢字検定実施 ■アメリカ合衆国コロラド州アスペン市短期留学生受け入れ 　・ウェルカムパーティー，各学校交流プログラム，サヨナラパーティー ■プロジェクター型電子黒板導入予算要望（占冠村） 　・杉並区のＩＣＴ活用例を参考に…占冠村での導入を検討 ◯ショウ＆テルと英語スキルの継続的実施と記録，検証…① ◯対話型ショウ＆テル実施…① ◯上川管内教育研究会南部地区外国語班授業公開…② 　・外国語活動３年授業公開 　（助言～北海道教育庁上川教育局義務教育指導班主査　遠藤直俊氏） ◯上川管内へき地複式教育研究大会～外国語活動公開…② 　・２年外国語活動，４年外国語活動，６年外国語活動，ショウ＆テル１・３・５年　公開 　・外部有識者　北海道教育大学　英語教育学教授　萬谷隆一氏　助言者 ◯英語学習の実施と記録と改善…② ◯アメリカ合衆国コロラド州アスペン市の留学生との国際交流集会の実施…② 　・高学年による英語劇発表，英語で自己紹介，英語ゲーム ◯個人カルテ記録…③ ◯上川管内へき地複式教育研究大会の開会式と授業を２会場で相互に配信…④ 　・占冠中央小学校と占冠中学校で研究会をテレビ会議システムを活用して開催 ◯タブレットの活用…④ ◯音楽室の環境整備（楽器と触れる環境の整備）…⑤ ◯テレビ会議システムを活用した合同社会科見学事前学習（トマム学校）…⑥ ◯テレビ会議システムを活用した，村内学校間の授業実施（１年国語～トマム学校）…⑥ ◯占冠神楽授業計画…⑧ ◯占冠産１００％メープルシロップＰＲ授業実施…⑧ 　（講師　ドキュメンタリー映画監督　野田氏，ウェブコンサルタント　林氏） ◯羊毛刈り体験（地域おこし協力隊） ◯国際感覚を身に付けるプログラム事前打ち合わせ（北海道大学）…⑨ ◯学童と放課後子ども教室（放課後キッズスペース）の取組開始（週２回）…⑪ 　・羊毛クラフト，フットサル，カボチャ団子，卓球，縄跳び ◯中学生や義務教育学校後期課程の生徒を対象にしたステップアップサポートゼミ実施…⑪
11月	■地域学校協働本部会議実施 ■平成３０年度占冠学園構想案策定 ■ＣＳ視察受け入れ（士別市・和寒町・芽室町・鷹栖町） ◯ショウ＆テルと英語スキルの継続的実施と記録，検証…① ◯対話型ショウ＆テル実施…① ◯学習発表会において，ショウ＆テル成果発表…① ◯英語学習の実施と記録と改善，校内授業研究…② ◯個人カルテ記録…③ ◯タブレットの活用…④ ◯テレビ会議システムを活用した村内学校間の授業実施（２年国語）…⑥ ◯テレビ会議システムを活用した特別支援教育講演会（トマム学校へ配信）…⑥ ◯北海道大学による占冠中学校への遠隔授業打合せ…⑦ ◯占冠神楽の授業実施（２回）…⑧ ◯国際感覚を身に付けるプログラム事前打ち合わせ…⑨ ◯学童クラブと放課後子ども教室（放課後キッズスペース）…⑪ 　・ボードゲーム，卓球，バスケット，タブレット，メープル蒸しパン ◯土曜学習２回実施…⑪ 　・ピアノ講師　杉江光太郎氏（ニセコ） 　・キッズスポーツ講師　田口あきほ氏（上富良野町） 　・アコーディオン，バグパイプ　ＮＰＯ法人ノルドミューズ　代表　長嶺久美子氏 ◯中学生や義務教育学校後期課程の生徒を対象にしたステップアップサポートゼミ実施…⑪

12月	■第２回占冠大好き教育推進会議実施 ■地域学校協働本部会議実施 ○ショウ＆テルと英語スキルの継続的実施と記録，検証…① ○対話型ショウ＆テル実施…① ○英語学習の実施と記録と改善…② ○個人カルテ記録…③ ○タブレットの活用とメンテナンス…④ ○プログラミング学習打合せ（講師　地域おこし協力隊　水野佑紀氏）…④ ○占冠神楽の授業実施（２回）…⑧ ○国際感覚を身に付けるプログラム事前打ち合わせ（北海道大学）…⑨ ・北海道大学大学院生６名，北海道大学大学院環境科学研究院教授　山中康裕氏 ○長生会（高齢者クラブ）との交流授業…⑩ ○学童クラブと放課後子ども教室（放課後キッズスペース）…⑪ ・フットサル，タブレット，羊毛クラフト，百人一首，メープルアイスクリーム ○土曜学習２回実施…⑪ ・アコーディオン，バグパイプ　ＮＰＯ法人ノルドミューズ　代表　長嶺久美子氏 ・韓国語講座　星野リゾートトマム従業員　朴　裕美氏 ・羊毛クラフト　地域おこし協力隊　有光志穂氏 ・キッズスポーツ講師　田口あきほ氏（上富良野町） ○中学生や義務教育学校後期課程の生徒を対象にしたステップアップサポートゼミ実施…⑪ ○占冠村子どもの生活学習習慣改善の取組（上川管内スライド３０）…⑪
1月	■地域学校協働本部会議実施 ■小中一貫保護者説明会実施 ■ＣＳ視察受け入れ（浜頓別町） ■平成３０年度移行期間外国語活動・英語教育課程編成 ■特別な教科道徳教育課程編成 ○ショウ＆テルと英語スキルの継続的実施と記録，検証…① ○個人カルテ記録…③ ○タブレットの活用…④ ○プログラミング学習打合せ…④ ○寿都小学校とのネットワーク授業実施…⑥ ○学童クラブと放課後子ども教室（放課後キッズスペース）…⑪ ・ボードゲーム，羊毛クラフト，卓球，バスケット ○土曜学習２回実施…⑪ ・韓国語講座　星野リゾートトマム従業員　朴　裕美氏 ・ピアノ講師　杉江光太郎氏（ニセコ） ・英語教室　村ＡＬＴ　トーマス・ホルトン氏 ○中学生や義務教育学校後期課程の生徒を対象にしたステップアップサポートゼミ実施…⑪ ○占冠村子どもの生活学習習慣改善の取組（上川管内スライド３０）…⑪
2月	■地域学校協働本部会議実施 ■第３回占冠大好き教育推進会議（学校運営協議会）実施 ■文科省事業報告書作成開始 ■ＣＳ視察受け入れ（愛別町） ■ＣＳ資料送付（幌延町） ■ＩＣＴ視察受け入れ（鹿児島県議会議員６名） ■小中一貫教育北海道フォーラム参加（札幌市） ■国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会（外国語活動）参加　文科省 ■ショウ＆テル研修打合せ（東京学芸大学教職大学院　准教授　岩瀬直樹氏） ■占冠神楽授業打合せ（東京　ドキュメンタリー映画監督　野田香里氏） ○英語学習の実施と記録と改善…② ○個人カルテ記録引き継ぎ（占冠中学校）…③ ○タブレットの活用…④ ○鹿児島県徳之島町立母間小学校とのネットワーク授業実施…⑥ ○北海道大学による占冠中学校への遠隔授業実施（理科）…⑦ ○テレビ会議システムを活用した校内研修（性教育）…⑦ ・日本科学未来館からのコンテンツ配信～双方向で実施 ○三者連携協定による「雪の学校」（雪崩の学習）実施…⑧ ○学童クラブと放課後子ども教室（放課後キッズズース）…⑪ ・ボードゲーム，キャンドル，羊毛クラフト，料理 ○土曜学習２回実施…⑪ ・ミニ四駆で遊ぶＰＤＣＡワークショップ　地域おこし協力隊　清水大夢氏 ・羊毛クラフト　地域おこし協力隊　有光志穂氏 ・英語教室　村ＡＬＴ　トーマス・ホルトン氏 ・卓球教室　元役場職員　中田芳治氏 ○小学生高学年から中学生と義務教育学校後期課程の児童生徒を対象にした 公設塾（ステップアップサポートゼミ）を来年度から実施予定…⑪

3月	■地域学校協働本部会議実施 ■ショウ＆テル校内研修　講師　東京学芸大学教職大学院　准教授　岩瀬直樹氏 ■少子化人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業の反省と今後の取組についての計画立案 ■ＴＫ式学力テストを全学年実施（学力定着状況分析と指導改善） ■ショウ＆テルの３年間の成果と課題を分析 ■プロジェクター型電子黒板導入へ向けた準備と道内先進地視察計画（千歳市） 〇次年度以降におけるショウ＆テルの取組検討…① 〇対話型ショウ＆テル実施と岩瀬直樹による授業実施…① 〇英語学習の実施と記録と改善…② 〇個人カルテ中学校へ引き継ぎ…③ 〇タブレットの活用とメンテナンス…④ 〇学童クラブと放課後子ども教室（放課後キッズスペース）の成果と課題の分析，改善…⑪ 　・ボードゲーム，卓球，フットサル，料理 〇土曜学習２回実施…⑪ 　・英語教室　村ＡＬＴ　トーマス・ホルトン氏 　・卓球教室　元役場職員　中田芳治氏

※必要に応じて，適宜，行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は，適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催，視察，調査研究の委託など）については，必ず記載すること。

６．事業の成果

（１）研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

課題（１）ア ○有識者の指導を受けながらショウ＆テルを全学年継続実施し，児童一人一人の表現能力が向上した。…① ○ショウ＆テル評価規準による評価をもとに，対話型ショウ＆テルの取組を新たにスタートさせたことで，児童が身に付けた表現力を他の教育活動の場面で生かせるようになった。…① ○占冠中央小学校においては，英語を年間，低学年２０時間，中学年３５時間，高学年４１時間実施した。加えて，朝の英語スキルを週４回年間を通して実施し，児童の英語に対する興味関心を高めた。平成３０年度からは，低学年２０時間，中学年３５時間，高学年７０時間を実施する。…② ○月２回の土曜学習の中で英語学習や海外からのトマムリゾート従業員による国際理解教育を実施したり米国アスペン市短期留学生との交流で，全学年が英語で自己紹介することができた。…② ○個人カルテの掲載内容を検討し，ファイルを作成した。教科の定着度をはじめ社会教育への参加状況等も掲載し中学校への引き継ぎを複数回実施した。…③
課題（１）イ ○タブレットの試験的導入とｅライブラリの児童一人一人のＩＤ設定により，児童が学習の振り返りをすることが可能となり，きめ細かな指導が充実した。更に，各教科の授業でタブレットを活用した３年生以上の児童によるプレゼンテーションが実施された。…④ ○３年間の文科省事業によるＩＣＴ器機活用の取組の成果から，平成３０年度から数年かけ村内すべての学校のすべての教室にプロジェクター型電子黒板を導入予定。…④ ○図書室やホールでもインターネットが活用できる学習環境を整えた。特にホールの壁をスクリーンとして活用するなど校内環境の活用が充実した。また，タブレットの授業での活用回数と時間が増加した。…⑤
課題（２）ア ○学校間ネットワーク機器の試験的運用により，ネットワーク機器の接続テストを実施し遠隔授業や学校間ネットワーク活用の授業が可能となった。…⑥ ○村内学校間のネットワーク機器を活用した授業を１０回実施した。…⑥ ○トマム学校後期教育課程と占冠中学校でネットワーク授業を実施した。…⑥ ○テレビ会議システムを活用し，教職員研修や会議や打合せを１５回実施した。…⑥ ○テレビ会議システムを活用して，日本科学未来館と研修を実施した。…⑦ ○北海道大学大学院と占冠中学校間でネットワーク授業（専門性のある理科の授業）を実施した。…⑦ ○占冠中央小学校と寿都小学校間で，ネットワーク授業を実施した。…⑦ ○占冠中央小学校と鹿児島県徳之島町母間小学校間で，ネットワーク授業を実施した。…⑦
課題（２）イ ○村・リゾート・北大の三者連携協定による「川の学校」や「雪の学校」を教育課程に位置付けるなど，各関係機関を活用した「ふるさと学習」が充実した。「メープルシロップ」「化石」等地域題材を活用した学習に加え，「占冠神楽」という伝統文化の伝承に関わる授業を実施した。このことにより占冠神楽伝承の体制が確立し，更なる伝統文化理解教育の充実が図られる体制が整った。…⑧ ○村内リゾートにおける外国籍従業員による国際理解教育を実施した。また，昨年度の北海道大学大学院と共同開発した「国際感覚を身に付けるプログラム」を今年度も実施した。…⑨
課題（２）エ ○アスペンからの留学生を受け入れ，全児童が英語で自己紹介したりゲームで交流したりした。また，学年を超えた班編制による地域高齢者との交流も実施し児童の社会性の育成が図られた。また，「国立日高青少年の家」主催の通学合宿に８名の児童が平均５日間参加し，他管内の小学生との交流を図ることができた。また，この通学合宿にトマム学校児童の参加も呼びかけている。…⑩ ○長期休業中の学習サポートや放課後の学習や遊びのサポートについて，協力大学の学生ボランティアや地域見守りボランティアをはじめとして村の企画商工課所属である地域おこし協力隊も講師に活用した学習 環境が整った。今年度は保護者の協力も得ることができた。 ○月２回の土曜学習を実施し，英語学習や卓球をはじめ海外からのリゾート従業員による国際理解教育に加え，ピアノやアコーディオン，ギター等の楽器にに触れたり，バグパイプの演奏を聴く等の学習を実施した。今後は，占冠産の木材でリコーダーや笛を作成して，音楽の時間に活用していきたいと考えている。…⑪ ○放課後の見守りボランティアの活用や，学童と放課後児童教室の一体化が実施されたことで，１７時ま

※必要に応じて，適宜，表を追加・削除すること。

（２）成果物等

①「占冠大好き教育」研究報告書Ⅲ（事業計画・報告，ショウ＆テル記録集，移行期外国語活動・英語教育課
②研究報告補助資料　平成２９年度版　「教育活動ＤＶＤ」
③パンフレット～平成２９年度版　中央小コミュニティ・スクール
④平成２９年度　子どもの学習環境の充実に向けて　主催　占冠村公民館
⑤平成２９年度版　占冠学びの１０箇条

※必要に応じて，適宜，枠を広げること。
※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）については，10部添付すること。
※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）の電子媒体がある場合は，併せて送付すること。

（３）今後の取組予定

占冠学園コミュニティ・スクール
　小中一貫校（占冠中央小・占冠中），トマム学校（義務教育学校）
　　　～地域はどこも学校，地域の自然・人・物はみな教師である～を目指して

「少子高齢化が全国に先駆けて進む占冠村において，今後もトマム地区において数年の間，少子化が進む心配がある。一方，中央地区では，現在の児童生徒数を確保出来る予定である。そこで，地方創生の取組の中で，トマム地区に４戸の新規入居の住宅を建設し，児童数増加のための入居者の募集を実施しているところである。中央地区においても，移住対応の住宅整備を開始している。特に，学校と村が一体となって制作した占冠産メープルシロップのＰＲ映像や次年度制作予定である占冠村の学校教育のＰＲ映像を，東京都の移住・交流情報ガーデン等で活用していくことを考えている。子どもの育成は村の存続に重要な課題であり，本事業が平成２９年度をもって終了するが，村立の学校を存続させていくために，平成２７年度から開始した，本事業３年間の取組を継続していく考えである。

具体的には，平成３０年以降においても，小規模校のデメリットの解消のため，学校と村内外を繋ぐネットワークを構築し，地域の大学やリゾート企業と連携したふるさと学習や外国語学習を実施していく。そのことを通して，小規模校で不足しがちな多様な価値観に触れる機会を確保する。

また，小規模校であることのメリットを生かし，教材教具を一人一人に行き渡らせた教育活動やショー＆テル等，少人数でなければできない教育活動を充実させる。これらの取組を通して，小規模校の課題を解決すると同時に，基礎学力，英語力などを中心にして子どもたちの「生きる力」を育み，「占冠大好き」教育を継続する。

これらのことを推進するため，下記のように,文科省「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」の３年間の成果を更に活かした取組を推進したいと考える。

①トマム小中学校（小中併置校）を平成２９年度から義務教育学校へ移行することができたこと。
②占冠中央小学校と占冠中学校が平成３０年度から小中一貫校型小学校・中学校へ移行すること。
③村内全３校すべてがコミュニティ・スクールとなっていること。
④平成３１年度から，占冠学園学校運営協議会を開催し，占冠学園（※）をスタートさせること。

これらの成果を活かして，占冠科学園構想の実現を図っていきたいと考える。そのためには，各学校間の教職員の理解と，地域保護者の支援の充実が課題となる。そのため，本事業の経過と成果を村内の教職員に十分に理解させ，現状の教育活動の効率化を一層推進しながら一方では，「ふるさと学習」と「英語学習」という大きな２つの柱で児童生徒を育成していく村の教育活動を更に推進していく。

具体的には，３校の学校運営協議会の設立に合わせ，占冠村教育研究会や占冠村へき地複式教育連盟という制度も活用し，小中一貫の教育課程の編成を進めていく。

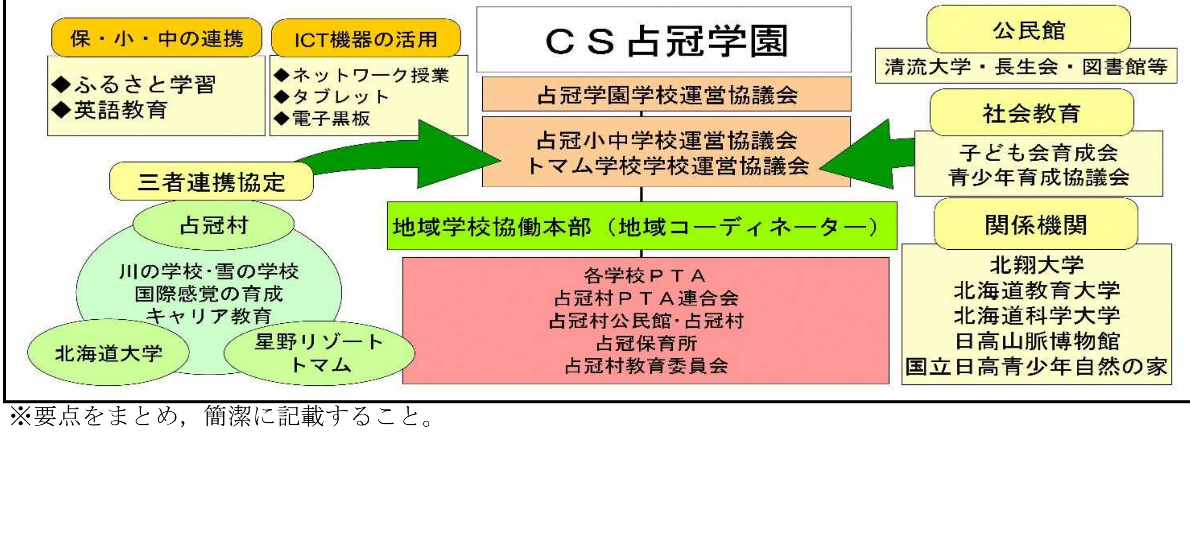
また，ＩＣＴの更なる充実のため，既に，平成２９年度，村内児童生徒１人に一台のタブレットが配置されていることに加え，平成３０年度にプロジェクター型電子黒板を占冠中央小学校の１教室に先行して配置し，調査研究を経て，村内各学校の全教室にこの電子黒板を配置する予定である。このことにより，複式指導の充実を図っていきたい。

更に，本事業で推進してきた土曜学習等の児童生徒の豊かな学習環境充実の取組が，学校支援地域本部の体制から学校地域協働本部体制へ移行されたことを受けて，村内の各学校における学習サポートを充実させていきたい。加えて，今年度，中学校と義務教育後期課程の生徒を対象にした「占冠ステップアップサポートゼミ（無料塾）」を次年度から小学校高学年，義務教育学校５年生以上の児童生徒を対象としていく予定である。

また，「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の一体化に向けた取組を平成２９年度から開始し，次年度も継続発展し，村内全ての児童生徒にとっての安心安全な居場所を創出するとともに，学校施設を有効活用しながら，地域人材による豊かな学習環境の整備を推進し，地域の人々のやりがいを創出し，世代間交流を促進していきたい。

このようにして，本事業が終了しても，村内全３校の「占冠学園学校運営協議会」と「占冠村学校地域協働本部」が占冠村の教育を支えていく仕組を確立していきたいと考えている。学校教育に関する村の予算や社会教育関連の予算を一層充実し，これらの事業を実現していく予定である。

※占冠学園構想とは，村内の全ての学校がコミュニティ・スクールとして指定されている中，トマム地区においては，トマム小中学校（小中併置校）が義務教育学校に移行し，中央地区の占冠中央小学校と占冠中学校が小中一貫校となり，村内３校を総称して占冠学園とするものである。平成３１年度に占冠学園の学校運営協議会を設立し，村内３校の教員を兼務発令していくことで，学園としての特色ある教育活動を展　開していく予定である。



※要点をまとめ，簡潔に記載すること。